

千里シリーズ2010

両雄対決…白木が杉原を破りV!

杉原陽一（レギュラーシーズン優勝）

V S

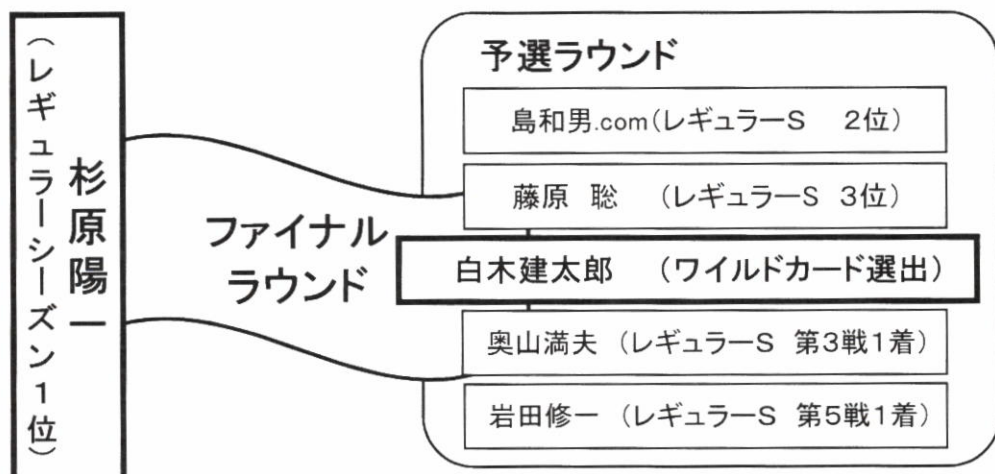
白木建太郎（ワイルドカード選出）

2010年の掉尾を飾るWBF千里シリーズは11月6日、WBFの原点回帰の聖地‘ボウル曾根’で開催された。

半年に及ぶレギュラーステージを勝ち抜いた杉原陽一選手への挑戦権を賭けてます行なわれた5名参加の予選ラウンド、練習投球で5連続ストライクを出し準備万端の藤原選手、4年連続の成り上がりを目指す奥山選手、遷都1300年で盛り上がる奈良から島和男.com選手・岩田選手、そしてワイルドカード枠で白木選手が、と多士済々。

続いて、杉原VS白木の両横綱の対戦となった3勝先取方式のファイナルラウンドでは、白木選手が予選の好調さをそのまま持ち込み、終始杉原選手をリード、粘る杉原選手を振り切って、6年ぶり5度目の千里シリーズ制覇を果たした。

【構成：松本誠司】



2010 WBF Championship “Senri-Series”

●予選ラウンド

白木選手ワイルドカードからファイナル進出！

今シーズンわずか1試合参加の白木選手が5年ぶりファイナルステージへ……。

2年連続、しかも連続5冠王でレギュラーシリーズを制した杉原陽一選手。この杉原選手への挑戦権を賭け、予選ラウンドは参加資格を持つ5名全員がエントリーし、2ゲーム制の試合が行われた。

気合い十分の藤原選手は試合前に恒例の個人練習を行い、素点200Up。スコアシートを周囲にアピールする。

さて、第1ゲーム、練習十分の藤原選手はストライク発進と好スタートを切ったが、その後ぐだぐだの展開となり脱落。奥山・島和男.comの両ベテランも奮闘するが、トップに立ったのは白木選手。中盤から着々とマークを重ね182でトップに立った。

続く第2ゲーム、がんばれば手が届きそうな第1ゲームのトップスコア。これが微妙なプレッシャーを与えるのか、スベアが取れず、一人、また一人と脱落していく。

そして第1ゲームのスコアを更新したのは、他ならぬ白木選手。ダブル発進で流れに乗って188でフィニッシュ。杉原選手への挑戦権を獲得した。

白木選手は今期わずか1試合参加。半年以上、実戦から遠ざかっていたが、杉原選手と同様に過去2期連続で5冠王を達成した実力はダテではないということか。ちなみにワイルド

予選ラウンド結果

選手名	Gm	1 F	2 F	3 F	4 F	5 F	6 F	7 F	8 F	9 F	10 F	得点
島和男.com	1	1 2	9 /	9 /	*	7 /	7 -	*	9 /	8 -	7 /	* 152>>161
岩田修一	1	9 -	6 2	6 3	*	6 -	*	9 /	8 -	9 -	8 -	111>>146
奥山満夫	1	5 4	9 /	s8 -	7 /	6 3	9 /	9 /	9 /	*	* 7 2	164>>170
白木建太郎	1	9 -	9 /	8 1	*	9 /	9 /	*	8 /	*	9 /	8 173>>182
藤原 聡	1	*	s7 1	*	9 -	G 9	9 /	3 5	s7 1	7 /	7 /	9 128>>161
白木建太郎	2	*	*	9 /	9 /	8 /	9 -	9 /	8 /	9 /	9 -	179>>188
藤原 聡	2	3 5	G 8	*	9 /	s8 1	9 -	8 -	G 7	8 -	* 8 /	115>>148
奥山満夫	2	*	s7 1	*	9 /	9 -	9 -	5 3	8 /	9 /	9 /	9 148>>154
岩田修一	2	8 -	*	9 -	7 /	7 /	9 /	8 /	7 2	7 2	5 /	3 138>>164
島和男.com	2	9 /	7 2	9 /	s7 1	5 4	7 /	9 /	*	6 2	9 /	9 144>>153

※ 白木建太郎選手がファイナルステージ進出

2010 WBF Championship "Senri-Series"

●ファイナルラウンド第1戦

白木盤石のスコアメイクで緒戦奪取！

第1投こそヘッドピンを外した白木選手であったが、1フレをカバーするとその後は安定したスコアメイク。スプリット以外の8フレーム全てマークを重ね、まさに盤石のスコアメイクで緒戦を取った。

一方の杉原選手は中盤でダブルを出し、白木選手にプレッシャーを与えたものの、終盤のオープンが響き、波に乗ることができないまま第1戦を終えてしまった。

杉原陽一 (シーズン優勝)	7 2 9	× 29	8 / 46	⑦ 1 54	× 81	× 100	7 2 109	6 / 127	8 1 136	⑧ 1 145	6 151
ハンデ込み 得点差⇒	↓ 14	↓ 14	↓ 17	↓ 29	↓ 21	↓ 19	↓ 19	↓ 29	↓ 39	↓ 39 1勝	HDCP 競技点
白木建太郎 (ワイルドカード)	4 / 20	× 40	8 / 60	× 80	8 / 99	9 / 116	⑦ 2 125	× 153	× 172	⑧ 1 181	9 190

●ファイナルラウンド第2戦

白木号、安定飛行！

スペア率100%堅持で第2戦も手の中に

第1戦をスプリット以外はすべてマークし(WBFルールでスペア率100%)、安定飛行中の白木選手。第2戦でもマークを重ね、安定したスコアメイク。中盤スプリットでスコアを落としたとき、杉原選手に逆転を許したが、ダブルで復調し、そのまま振り切った。

杉原選手は緒戦に比べて安定してきた。そして中盤4・5ピンという平行ピンをカバーし、上昇気流に乗りたいところだったが、その後のスプリットが響いて1フレーム差で勝負を落とした。

杉原陽一 (シーズン優勝)	9 / 16	6 3 25	7 / 45	× 65	9 / 83	⑧ / 103	× 122	⑧ 1 131	× 151	9 / × 171	6 177
ハンデ込み 得点差⇒	↓ 7	↓ 17	↓ 14	↓ 3	↓ 2	↓ 19		↓ 11	↓ 10	↓ 8 2勝	HDCP 競技点
白木建太郎 (ワイルドカード)	× 20	9 / 39	9 / 56	⑦ 2 65	6 / 82	⑦ 2 91	× 119	× 139	8 / 158	9 / 8 176	9 185

2010 WBF Championship "Senri-Series"

●ファイナルラウンド第3戦

土壇場の逆転 スプリットカバーを重ね
最終フレーム執念のダブルで杉原1勝！

第2戦から杉原選手にはスプリットの魔物がとりついてしまった。このゲームでも第2・4・5・9フレームでスプリット。普通ならこれではスコアメイクにならないところだ。ところが杉原選手は、4フレ中3フレでスプリットをカバー、終始1〜2フレーム分リードする白木選手にあきらめず追いつがった。

これが奏功したか、終盤に白木選手が連続オープンした間隙を見つけると、すかさずダブル、土壇場での大逆転を演じた。

												HDCP 競技点	
	×	⑦ /	9 /	⑧ /	⑧ 1	9 /	8 /	6 /	⑦ /	×	×		8
杉原陽一 (シーズン優勝)	20	39	57	75	84	102	118	135	155	↑ 7 1勝 2勝		183	189
ハンデ込み 得点差⇒	↓ 12	↓ 13	↓ 15	↓ 16	↓ 16	↓ 18	↓ 22	↓ 24	↓ 13				
白木建太郎 (ワイルドカード)	×	×	9 /	×	9 -	9 /	×	9 /	9 -	6 2		9	
	29	49	69	88	97	117	137	156	165	173		182	
													

●ファイナルラウンド第4戦

スプリットの魔物！杉原自滅！

第3戦ではスプリットの魔物を押さえ込むことに成功した杉原選手だったが、あまりにもヒドいスプリット地獄。このゲームでも終盤の大事なところで飛び石スプリット。前半のオープンもあって、意気消沈したか、自ら引導を渡す格好になった。

一方の白木選手は、第3戦終盤からのコントロールミスの中盤から修正。徐々にリードを広げていく理想的な展開でフィニッシュ！自身5回目となる千里シリーズのチャンピオンカップを手にした。

杉原陽一 (シーズン優勝)	×	⑧ー	8 1	6 3	7 /	⑧ 1	8 /	⑧ー	×	⑧ 1	6 131
	18	26	35	44	62	71	89	97	116	125	
ハンデ込み 得点差⇒	↑6									1勝 3勝	HDCP 競技点
		↓3	↓11	↓10	↓10	↓19	↓21	↓33	↓32	↓41	
白木建太郎 (ワイルドカード)	6 3	9 /	7 /	7 1	9 /	8 /	8 /	×	8 /	⑧ / 8	9 172
	9	26	43	51	69	87	107	127	145	163	

激闘を終えて...

杉原 1(○○●○)3 白木

惜しくも敗退した杉原陽一選手

第1戦は自らのコントロールミスが敗因。しかし第2ゲーム以降は、何らかの操作がはたらいたと思えない。普段なら自分の体全体、指先からボールが離れる瞬間までコントロールできている感覚があるのだが、この日は違っていた。何かだ。何かボウル曾根にいたのだ。

優勝した 白木建太郎選手

同じ年の杉原君と対決するのは実は初めてで緊張しました。さすがに杉原さんは簡単には勝たせてくれませんでした。まあ半年間の仕込みが巧いということですかね、ふふふ。

21世紀のWBFを引っ張る若い世代だと思っていた我々も気がつけばアラフォー。これからも精進しましょう。

千里シリーズ過去の戦績

※1	1989	松本誠司	4(○○○●○)	1	松本昌士
	1990	奥山満夫	4(●●●○○○)	3	下永義久
	1991	松本誠司	4(○○●○○)	1	島裕二
	1992	松本誠司	4(○○○○)	0	島裕二
	1993	松本誠司	4(○○○○)	0	田中寿美子
	1994	松本誠司	4(●○●○○○)	2	島和男
	1995	白木建太郎	4(●○○○○)	1	田中久
	1996	野村正明	4(○○●●△○○○)	3	松本誠司
	1997	杉原陽一	4(○○○○)	0	松本香代
	1998	松本誠司	4(○●○○○○)	2	白木建太郎
	1999	松本誠司	4(○○○○)	0	杉原陽一
	2000	白木建太郎	4(○○○○)	0	岩田修一
	2001	杉原陽一	4(○●●○○○○)	3	ロバート・K
	2002	白木建太郎	4(●●○○○○○)	3	松本誠司
※2	2003	松本昌士	3(○●○○)	1	◆松本誠司
	2004	◆白木建太郎	3(○●●○○△○)	2	松本昌士
	2005	松本昌士	3(○○○)	0	◆白木建太郎
	2006	岩田修一	3(●●○○○)	2	◆松本誠司
	2007	◆杉原陽一	3(○●○○●○)	2	奥山満夫
	2008	奥山満夫	3(○●○○)	1	◆島和男.com
	2009	◆杉原陽一	3(●○○○)	1	奥山満夫
	2010	白木建太郎	3(○○●○)	1	◆杉原陽一

※1 島裕二が前後期制覇をしているため、総合優勝は島裕二と記録。特別企画の「千里G1クライマックス」として開催。

※2 2003年以降、千里シリーズの実施方式が変更。3勝先取で優勝。
◆はレギュラーシーズン優勝